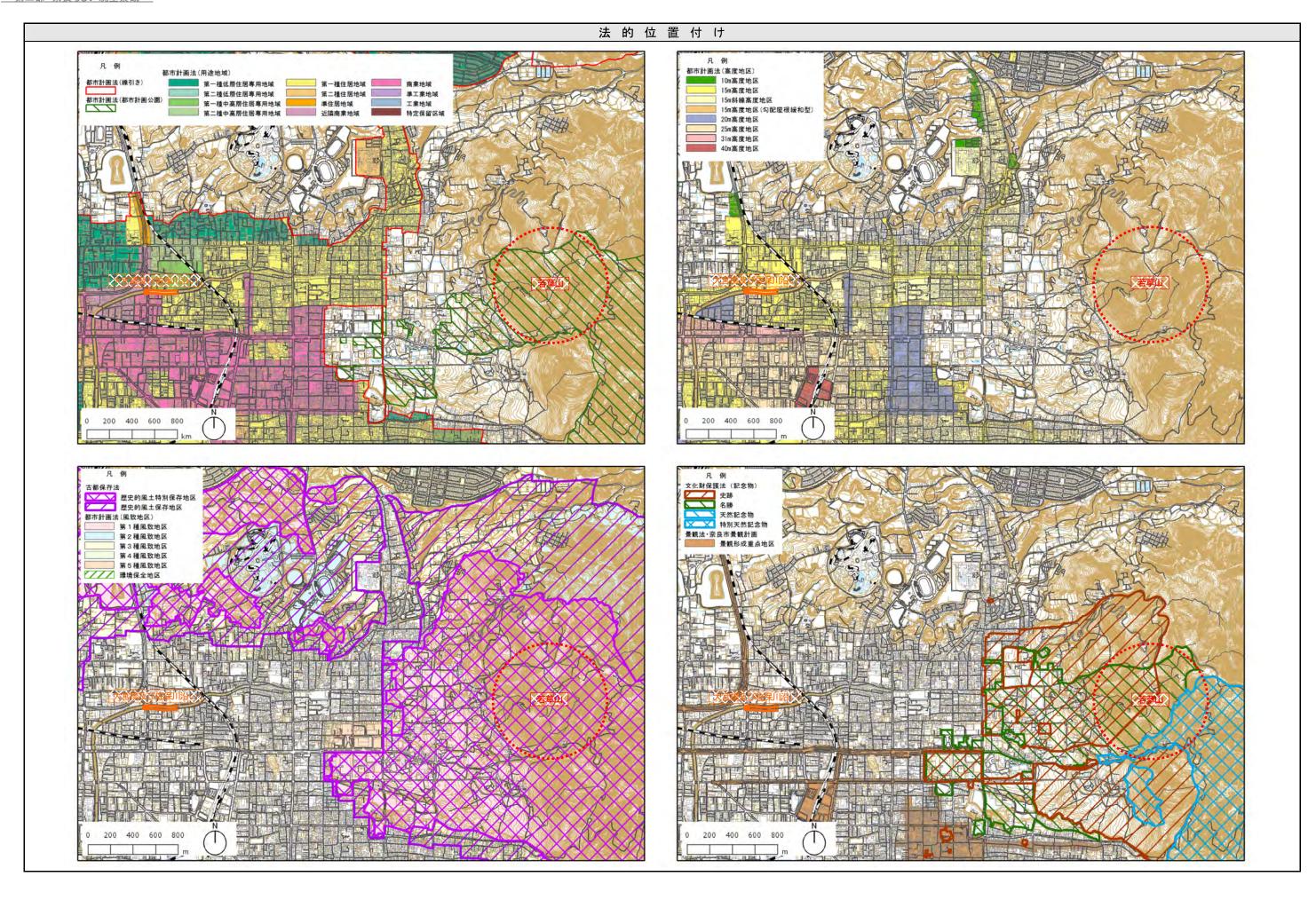
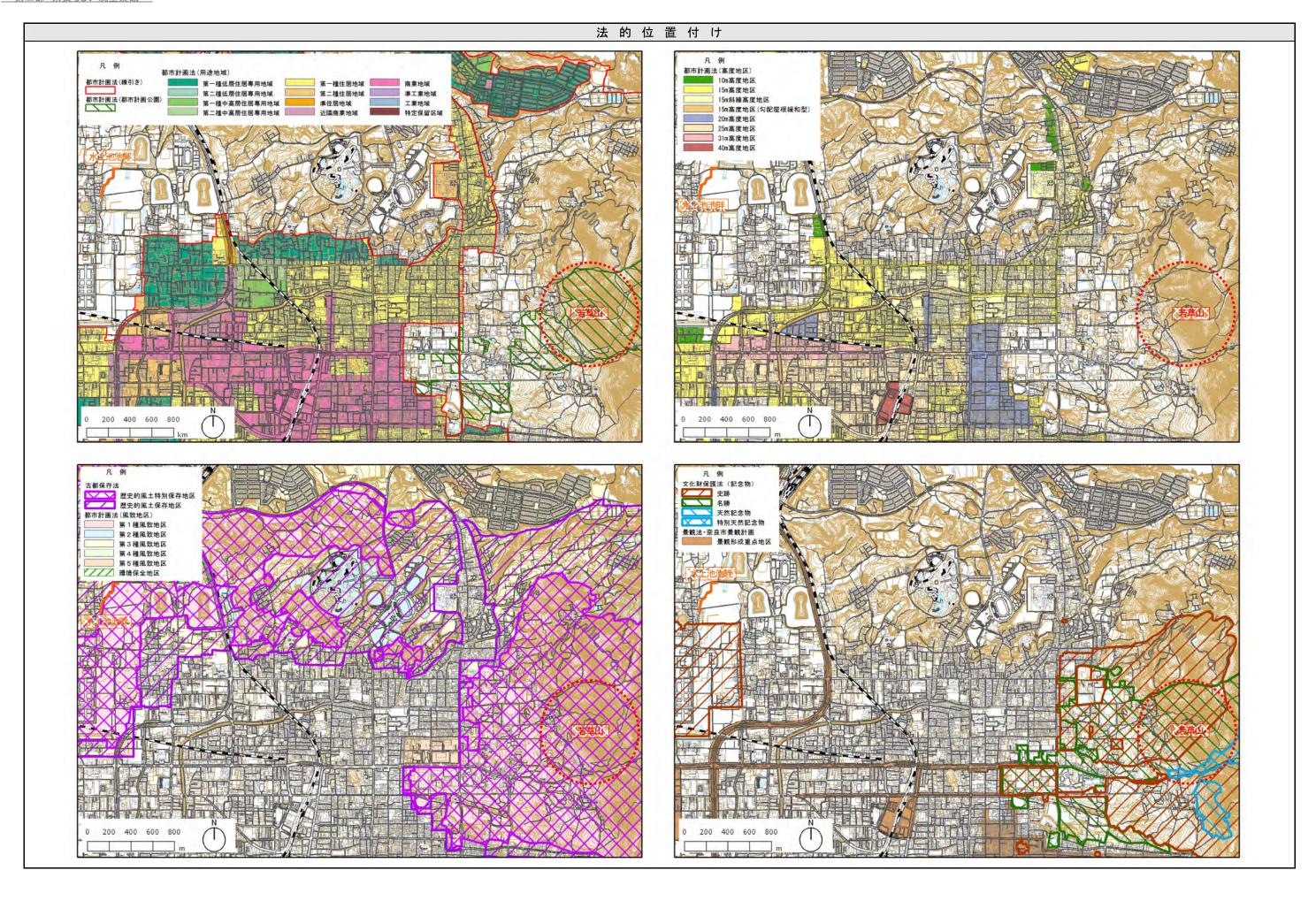
No. 22	大宮橋及び	佐保川沿いから若草山への眺望		類	型	Ⅲ:見通し型眺望景観
				視点	場	大宮橋及び佐保川沿い
東京町で発生しています。 1980年 198				視対	象	若草山
				近	景	佐保川及び沿川の桜並木
在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个			在	眺望空間中	景	佐保川及び沿川の桜並木
			● 日本	遠	景	若草山、山並み
世代保川沿いのサクラ並木が、大宮橋から若草山への軸線を形成し、若草山を象徴的に眺めることができる。河川とサクラ並木と若草山による自然豊かな景観であり、四季の移ろいが感じられる眺望景観である。						若草山は、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内、第一種風致地区や歴史的風土特別保存地区等により保護されており、視対象については、新たな保全施策は求められない。 周囲は15m高度地区及び15m斜線高度地区であり、山の稜
心で感の特性	歴史的背景	<b>若草山</b> 山容が菅笠の形をし、3 つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。 <b>佐保川</b> 佐保川は平城京でいう左京三坊を地形に沿って蛇行して南下していたが、平城京の造営により、三坊の西よりを直線的に南下するように河川改修されている。昭和4年(1929)に佐保川保勝会が組織され、近年では、20 年程前に県により植樹が行われた。		守るための	めの視点	線を分断するような建物は建てられないが、塔屋や屋上広告物等がサクラ並木の背後に映りこむおそれがある。屋上広告物の色彩や形態意匠の制限を設け、眺望景観に映り込む場合は、色彩や形態意匠に配慮することが求められる。 自然豊かな軸線をつくりだすとともに、春には美しいサクラの帯がつくりだされる河川沿いのサクラ並木の保全・管理を進めることが求められる。特に、「川路桜」などのサクラの
		若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮いう説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるとい諸説がある。春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)「寸たつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな」(「宇津保物語」) 佐保川 江戸時代からの奈良の伝統産業「奈良晒」づくりの作業には、水洗いのための清流が不可欠であり、佐保川 おれたという。江戸時代、奈良の名奉行川路聖謨は植樹に関心深く、東大寺や興福寺の境内の桜が枯れて風致が荒れのを遺憾として、東大寺、興福寺から高円・佐保のあたりまで、桜と楓の苗木を植樹したと伝えられる。佐保川堤の木は地元で「川路桜」といわれる。 蛍、千鳥、蛙、青柳などの自然が、古来詩歌に多く詠まれている。 「佐保川の 清き川原に 鳴く千鳥 蛙と二つ 忘れかねつも」(万葉集7-1123、作者不詳)「うち上る 佐保の川原の 青柳は 今は春へと なりにけるかも」(万葉集8-1433、大伴坂上郎女)「佐保川の 小石ふみ渡り ぬばたまの 黒馬の来る夜は 年にもあらぬか」(万葉集4-525、大伴坂上郎女)「佐保川の 水を塞きあげて 植ゑし田を 刈る早飯は 独りなるべし」(万葉集8-1635、上の句:尼/下の句:・・・最古の連歌				古木の保護が求められる。 (施策の方向性) A-1, A-2, E-2
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品			整えるための視点		河川沿いの建築物はサクラ並木により目立たないが、建物上部の塔屋が視界に映り込むものもみられるため、修景が求められる。 河川護岸のコンクリートブロックが自然的な景観と調和しない。 (施策の方向性) F-2, H-2
	眺望景観の 構成要素の 関 係					奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されているものの、主要な視点場のひとつである大宮橋歩道は、立ち止まってゆっくりと眺望を楽しめるような場としての整備はされ
情報としての景観の特性				活かすための		ていない。視点場としての案内板等の整備の検討が求められる。 佐保川小学校では、佐保川を学習の場とした「水辺の楽校」 の取り組みを進めており、水質検査や生物観察、清掃活動な
						どを実施しており、地域住民等と連携した取り組みの継続・ 拡充が求められる。 (施策の方向性) K-1



No. 23	水上池池畔	から若草山等の山並みへの眺望	類	型	Ⅱ:広がり型眺望景観
	OK LEGISTAL			点場	水上池池畔
			視対象		若草山
				近景	水上池
				中景	樹林、奈良市街地
				遠景	若草山等の山並み
「水上池」の北側(池の中)には藪があり、鳥が多く生息している。広々とした水面と水鳥、そして背後の御陵や歌姫の森といった、のどかで静かな風景である。水上池には四季を通じて野鳥が飛来し、背後に眺める若草山から連なる山並みや人工的でない池の堤防が相まって自然豊かな景観をつくり出している。					水上池は歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区として保存が図られている。また、若草山は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内等として保存が図られている。また、視点場が高台に位置し、
心で感じる	歴史的背景	水上池 現在は灌漑用水池として利用されているが、平城山の谷筋を堰止めてつくられたもので、その南堤が平城宮の北端に一致することから、造成は古代に遡ると考えられている。造成の目的が園地であったとはいえないが、結果として、松林苑の中に取り込まれた可能性が大きいとされる。 若草山 山容が菅笠の形をし、3 つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚は墳があり、鶯山とも呼ばれる。		めの視点	周囲に樹林が広がるため、遠景の市街地の高さ等により眺望 が阻害されるおそれは少ない。従って、新たな保全施策は求 められない。 山稜が美しく見えるよう、水上池池畔の樹林の適切な管理
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・ 伝承	水上池 「日本書紀」にみられる「和の狭城池」、「万葉集」にみられる「咲沢」「生沢」「開沼」は「水上池」であるともいわれる。 「万葉集」の「咲沢」「生沢」「開沼」であるといわれており、以下の歌が歌われている。 「をみなへし 咲沢に生ふる 花かつみ かつても知らぬ 恋もするかも」(万葉集 4-675、中臣女郎) 「かきつはた 開沼の菅を 笠に縫ひ 着む日を待つに 年ぞ経にける」(万葉集 11-2818、不明) 若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮魂のためという説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東大寺と興福寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説などの諸説がある。 春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みるぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな」(「宇津保物語」)		めの視点	水上池東側池畔の樹林のなかに点在する建築物が周囲の樹林の緑のなかで浮き立って見えるため、修景が求められる。 (施策の方向性) F-3
	眺望景観の 構成要素の 関 係				
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園 100 選」「日本の都市公園 100 選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が繰りたす日本の園暑百選」に選定されている。		ための視点	奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定され、また、 公募により推薦された眺望景観であるため、多くの人に知ら れているといえる。自転車専用道路として整備されているが、 眺望景観の視点場としての整備はされていないため、ゆっく りと眺望を享受できる場の整備が求められる。
	インベントリー				りと配筆を学文できる場の発開が求められる。 ( <b>施策の方向性)K-1</b>



No. 24	24 平城宮跡から東大寺大仏殿、若草山等の山並みへの眺望		類    型		Ⅱ:広がり型眺望景観
			視点		平城宮跡
		,平城宫跡。 「東太寺大仏殿」: 「東太寺大仏殿」:	視	· 象	東大寺大仏殿、若草山
	4			近 景	平城宮跡、市街地
			眺望空間中景		市街地
				遠景	市街地、東大寺大仏殿、東大寺境内、若草山、御蓋山や春日山等の山並み
目に見える景観の特性を		近景には広大な史跡地が広がるため、遠方の若草山や春日山をはじめとした美しい山稜を望むことができる。また、若草山や春日山の麓には、東大寺大仏殿や興福寺五重塔を望むことができる。史跡周囲を取り囲む樹木が市街地の喧騒を遮り、緑豊かな眺望景観をつくりだすが、一部高層建築等が突出して見える。			平城宮跡は特別史跡平城宮跡、若草山は、名勝奈良公園、 史跡東大寺旧境内、第一種風致地区や歴史的風土特別保存地 区等により保護されており、視点場及び視対象については、
心で感じる景観の特性	歴史的背景	平城宮跡 平城京の北部中央に位置し、東西約1.3km、南北約1kmを占める。大極殿・朝堂院や多くの役所などが位置したが、平安時代以降は、長い間水田となっていた。江戸時代末に、北浦定政が実測研究によって平城宮の規模を明らかにし、明治33年(1900) 奈良県技師関野貞が大極殿跡を明らかにし、宮跡の保存を訴えた。奈良の植木商棚田嘉十郎が私財を投げうって保存運動に努め、大正11年(1922) 大極殿と朝堂院の跡が史跡指定を受け、翌年国有地化された。若草山 山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。東大寺立という。奈良時代の大仏殿は、治承4年(1180)の平重衡などの南都焼討によって焼失している。建久6年(1195)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永禄10年(1567)の三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。	守るための視点		新たな保全施策は求められない。 視点場と視対象の間の近景には史跡地、中遠景には市街地が広がり、眺望空間のなかには、大宮通り沿道の 31m高度地区や JR 奈良駅周辺の 40m高度地区なども見られる。そのため、制限一杯で建てられた場合、中遠景部分であるため、若草山等の稜線を分断することはないが、麓に見える興福寺五重塔が隠れてしまうおそれ、建築物等の連なりによる圧迫感のある景観に変容してしまうおそれがある。また、建築物の色彩や屋上広告物の色彩が眺望景観を阻害するおそれがあるため、建築物等や屋外広告物の高さや形態意匠等についての規制・誘導が求められる。
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・ 伝承	<ul> <li>若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮魂のためという説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東大寺と興福寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説などの諸説がある。</li> <li>春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。「今もなほ妻やこもれる春日野の若草山にうぐひすの鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)「すたつともみゑぬものから鶯の山のいろいろふみも見るかな」(「宇津保物語」)</li> <li>平城宮跡(平城京) 万葉集にも多く詠まれている。「あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛りなり」(万葉集3-328、小野老)「たち変り古き都となりぬれば道の芝草長く生ひにけり」(万葉集6-1048、田辺福麻呂歌集)</li> <li>東大寺大仏殿 「平家物語」では、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって東大寺大仏殿が焼失した様子が描かれて</li> </ul>			(施策の方向性) A-1, A-2, A-3, C-1
	加品  公外	まり、東大寺大仏殿のわが国の歴史のなかでの重要性を物語る。 「大仏殿の二階の上には千余人のぼりあがり、敵の続くをのぼせじと、橋をばひいてけり。猛火はまさしうおしかけたり。おめきさけぶ声、焦熱・大焦熱・無間阿毘の炎の底の罪人も、これにはすぎじとぞみえし」また、和辻哲郎は「古寺巡礼」のなかで以下のように記している。 「大仏殿の屋根は空と同じ蒼い色で、ただこころもち錆がある。それが朧ろに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」 平城宮跡から若草山等への眺望 写真家入江泰吉の作品でも有名である。			奈良県庁や奈良近鉄ビル、高天ビルなど、現在も高い建築物が建てられている。そのため、場所によっては興福寺五重塔が全て隠れてしまう場所もある。現存するものについては、可能な限り修景を行うことが求められる。 (施策の方向性) F-1
	眺望景観の 構成要素の 関 係	_			
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	若草山 「大和名所図会巻ノー」(寛政3年(1791))、「奈良名所東山一覧之図」(幕末頃)、「いんばんや絵図」(明治3~15年(1870~1882))、「奈良名所細見図」(明治24年(1891))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。 平城宮跡 明治12年(1879)の「奈良名所独案内全」で紹介されている。 東大寺大仏殿 「大和国細見図」(享保20年(1735))、「大和名所図会巻ノー」(寛政3年(1791))、「いんばんや絵図」(明治3~15年(1870~1882))、「奈良名勝案内図」)大正14年(1925))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	活かすための視点		以前から奈良市では重要な眺望景観として位置づけており、現行の都市計画高度地区の根拠のひとつとなっている。また、奈良市都市計画マスタープランでも重要な眺望景観としてあげられている。また、奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定され、公募により推薦された眺望景観でもあり、
		平城宮跡 世界遺産として多くの人々に知られている。また、奈良は、「わたしの旅 100 選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。 若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園 100 選」「日本の都市公園 100 選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。 東大寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅 100 選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。		多くの人々に十分に認知されている眺望景観であるといえる。 平城宮跡における国営公園としての整備にあたっては、視 点場の整備も含めた眺望景観への配慮が求められる。 (施策の方向性) —	

